

施策評価表

施策分野	3-1 健康・医療	
めざすまちの姿	<p>○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心で健やかに暮らしている。</p> <p>○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。</p>	
施策	(1) 健康意識の向上とライフステージに応じた健康づくりの推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○生活習慣改善や感染症に関する啓発などにより、疾病予防や健康づくりを推進します</p> <p>○健診などにより、生活習慣病などの早期発見や重症化の予防に取り組みます</p> <p>○啓発や自殺予防対策に取り組み、心の健康づくりを推進します</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	食育推進事業	健康センター管理運営事業
	予防接種事業	がん等検診事業
	新型コロナウイルスワクチン接種事業	後期高齢者健診事業
	自殺予防対策事業	

実施した主な内容	<p>がん等検診事業では、子宮頸がん検診や乳がん検診において無料クーポン券や未受診者への個別勧奨通知の送付などこれまでの実績から受診率向上に効果のある取組を実施した。子どもの定期予防接種は概ね90%以上の接種率で推移しており、新型コロナウイルスワクチンについては、特例臨時接種の最終年度として接種希望者が速やかに接種できる体制を整え実施した。食育の推進については、食育のパネル展や他のイベント内での食育体験等を通じて啓発を行った。自殺予防対策については、自殺予防ゲートキーパー養成講座や支援者のセルフケア研修等に取り組んだ。また「やさしいからづか推進計画」の第2期計画を策定した。健康センターの老朽化対策として屋上防水、外壁塗装、トイレ改修を行った。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「意識的に健康づくりに取り組んでいる」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	52.5 (H30)	目標	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5
				実績	55.5	-	58.7			
	達成状況とその理由	前回調査時と比べ3.2ポイント増加した。検診や予防接種、食育推進等の保健事業などの取組や、コロナ禍を経て、日々の健康づくりへの意識が高まったと考える。								
	②	指標名								めざす方向性
		国民健康保険特定健康診査受診率								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	34.9	目標	55	58	60	40	42	44
				実績	36.3	37.4	37.5			
	達成状況とその理由	前年度から0.1ポイントの増となった。電話や訪問による受診勧奨の効果はあるが、大きな受診率の向上には結びついていない。								
	③	指標名								めざす方向性
		子宮頸がん検診受診率（職域を除く）								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	16.5	目標	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5
			実績	16.6	17.0	17.4				
達成状況とその理由	前年度より0.4ポイント向上し目標値以上を維持している。年齢や受診歴に考慮したクーポン券や受診勧奨通知の効果であると考えられる。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①は、目標を達成しており検診や予防接種、食育推進等の取組を通じて健康づくりに取り組む人が増えていると考える。指標③は、目標を達成しており、年齢や受診歴に考慮したクーポン券や受診勧奨通知が効果的に実施できたと考える。しかし、指標②は、めざす方向性に向かっているものの、目標を達成せず前年度と同程度にとどまっている。したがってB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	健康たからづか21（第2次後期計画）に基づき、検診の受診率向上や健康づくり活動の推進に取り組んでいる。令和6年度（2024年度）は第3次計画を策定し、これまでの取組の評価や課題を踏まえて各事務事業に取り組む。予防接種事業については、子どもの定期予防接種の高い接種率を確保できるよう計画的に個別通知などの接種勧奨と合わせて予防接種健康被害救済制度の周知を行う。また、令和6年度（2024年度）に新たに定期予防接種となる新型コロナウイルスワクチンの実施体制の構築が必要であり、今後国が示す時期から速やかに開始できるよう準備を進める。食育の推進については、第3次たからづか食育推進計画を進めるため、第2次計画で達成できなかった指標を踏まえて、子どもへの啓発に取り組む必要があり、食育関係団体と市が協働して取り組むことができる方法を検討している。自殺予防対策では、地域におけるネットワークの強化の一環として、多重債務者等への支援には法律職との連携が重要であるため、法律職にも専門職向けのゲートキーパー養成講座や自殺対策の講演会への参加を呼び掛けていく。築48年となる健康センターの建物の老朽化に対して、保健施策の拠点としての機能を維持できるよう計画的に改修等を行う。		
行政評価 委員会 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本施策には様々な施策があるが、将来的に施策の括り方についてこれでよいか、再検討いただきたい。 ・自殺予防対策については今後も全庁的にこれを推進していただきたい。 ・施策を構成する事務事業のいずれも評価が高いにも関わらず、指標②「国民健康保険特定健康診査の受診率」が達成できていないためB評価となっているのがこれでよいのか。行政活動の努力が反映されるような指標を採用すべきではないか。 ・指標①「市民アンケートで意識的に健康づくりに取り組んでいると回答した市民の割合」については、行政でコントロールできない相場的な指標であるため違う指標を検討していただきたい。 ・食育推進事業は成果指標がないが、評価欄にはコメントがある。わかりやすくなるよう記載内容を整えていただきたい。 ・子宮頸がん検診の受診率が低く、受診率の向上に重点的に取り組んでいることから指標③「子宮頸がん検診受診率」を設定していることがわかった。こうした背景がわかるように、市民目線のわかりやすい表現で評価表を記入いただきたい。 		

施策評価表

施策分野	3-1 健康・医療	
めざすまちの姿	<p>○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。</p> <p>○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。</p>	
施策	(2) 妊産婦・子どもへの母子保健事業の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○妊娠・出産・子育てに関する相談支援や情報提供など、妊産婦や子ども、家庭への切れ目のない支援に取り組みます</p> <p>○妊娠期からの児童虐待防止や育てにくさを感じる保護者への支援に取り組みます</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	母子保健相談指導事業	未熟児養育医療給付事業
	母子保健健康診査事業	母子保健訪問指導事業
	出産・子育て応援交付金事業	

実施した主な内容
 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の一環として、産後ケア事業の宿泊型、産婦健康診査事業、市民税非課税世帯や生活保護世帯の児を対象とした新生児聴覚検査費助成事業、低所得の妊婦に対する初回産科受診料支援事業を新たに実施した。また、出産・子育て応援交付金事業については、4月から経済的支援に加えて妊娠7～8か月頃にアンケートを送付し希望者や支援が必要な方に面談を開始した。さらに、従来健康センターやサービスセンター等で交付していた母子健康手帳については、健康センターとたからっ子総合相談センターあかねの2か所で交付するよう変更し、交付時に保健師等による面談を行いきめ細やかな相談体制づくりを行った。

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		健やか親子21問診調査で「妊娠・出産について満足している者」の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	74.7	目標	85	85	85	85	85	85
				実績	81.8	82.5	86.8			
	達成状況とその理由	産後ケア事業の宿泊型を開始し、訪問型・通所型と組合わせて利用できるようになったことや、産前・産後サポート事業との連携体制により、妊娠・出産に対する支援が充実したため								
	②	指標名								めざす方向性
		1歳6か月児健康診査受診率								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	94.5	目標	97	97	97	97	97	97
				実績	96.1	98.4%	97.7			
	達成状況とその理由	令和4年度から0.7ポイント減少したが目標値は達成できた。発育の確認や育児相談ができる場として対象児の保護者に認知されていると考える。								
	③	指標名								めざす方向性
		健やか親子21問診調査で「育てにくさを感じた時に対処できる親」の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	82.1	目標	95	95	95	95	95	95
			実績	84.8	84.4	82.0				
達成状況とその理由	令和4年度から2.4ポイントの減となっており目標は達成できなかった。年々減少している理由は不明であるが、子育ての相談の場をPRし保護者が一人でも悩まないよう支援したい。									
④	指標名								めざす方向性	
	3歳児健康診査受診率								↑	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	%	91.8	目標	95	95	95	95	95	95	
			実績	95.1	95	95.1				
達成状況とその理由	令和4年度から0.1ポイント増加し目標を達成した。発育の確認や育児相談ができる場として対象児の保護者に認知されていると考える。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の理由</p>	<p>指標①②④は、目標値を達成しており、産後ケア事業の宿泊型の実施を初めとする数々の産前産後を中心とした母子保健事業の充実や、専門職による相談、妊娠・出産・子育てに関する情報提供等の効果により「めざす方向性」に向かっている。指標③は、目標値を達成しなかったものの、育児支援や相談体制の充実を図りながら、今後の推移を注視したい。したがってA評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>妊産婦や子ども、家庭への切れ目のない支援については、児童福祉法の改正により、児童福祉と母子保健が組織一体的に相談支援を行うこども家庭センターの機能を、本市では令和6年度（2024年度）から「たからっ子総合相談センター」に設置している。引き続き組織の在り方や支援の内容などについて庁内での検討を進める。また、国から示される母子保健事業の新規・拡充事業について、優先順位を考慮し実施する。新たな乳幼児健診として、1か月児健診、5歳児健診の実施が示されており本市においても検討が必要である。</p> <p>情報提供については、母子健康手帳のデジタル化について、国では令和5年度（2023年度）に民間の子育てアプリを活用した乳幼児健診や予防接種結果などの母子保健情報のデジタル化の課題検証を実施しており、国の動向や本市における子育てアプリやLINEなどとの役割の整理を踏まえて検討を進める。</p> <p>母子保健事業については、出産・子育て応援交付金事業の他に、数々の助成事業や乳幼児健診の事務などが存在し、事務の効率的・効果的な実施方法の検討が必要である。</p>		
<p>行政評価委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦・乳幼児の全数把握は高く評価できる。この点は市民にとって重要であるので、広報を強化していただきたい。 ・乳幼児未受診時調査の取組はフォローアップも含めて高く評価できる。こうした取組が評価に反映されるように検討していただきたい。 ・成果指標③「育てにくさを感じた時に対処できる親の割合」は意味がわかりにくい。わかりやすい表現に見直しはできないか。 ・成果指標①は別の事務事業評価でも使われている。同じ成果指標を使うのであれば事業統合を検討できないか、という疑問につながる。整理していただきたい。 ・宝塚市は医療従事者が顕著に多く、民生費の割合も高い。これはこれまでの蓄積の結果でもあるので、PR に使えるのではないか。本施策が示すのは、「宝塚市では幸せに暮らせる」ということではないか。 ・既に目標値を達成している指標の目標値が据え置かれている。目標値の変更や指標自体の差し替えについて検討いただきたい。 		

施策評価表

施策分野	3-1 健康・医療	
めざすまちの姿	<p>○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。</p> <p>○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。</p>	
施策	(3) 安心・安全な地域医療体制の確保	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○地域の医療機関や介護施設との連携を深めます</p> <p>○市内外の医療機関の連携により地域の救急医療体制を確保します</p> <p>○市立病院の集学的がん診療体制を強化します</p> <p>○新たな中長期計画に基づき、市立病院の経営の安定化を図ります</p> <p>○市立病院の医療機能や病床規模の見直しに取り組みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	病院経営改善事業	地域医療連携推進事業
	救急医療推進事業	

実施した主な内容	<p>新型コロナウイルス感染症が令和5年（2023年）5月から5類感染症に移行されたことにより、病床確保をはじめとした本感染症対策に係る医療提供体制は軽減された。市立病院は救急車受入件数を前年比3割以上増加させ、また、地域医療連携に向けては逆紹介の推進に向けた取組に注力した。一方で、令和2年から続いたコロナ禍において看護師数が減少したことで、令和5年度も一部病棟の閉鎖を継続せざるを得なかったが、稼働病床数を289床から318床へ増やした。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		経常収支比率（病院）								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	97	目標	100	100	100	99.2	100.7	103.5
			実績	103	104.5	96.9				
	達成状況とその理由	D P C I ・ II 期間内退院率の向上により入院単価は目標値を達成したものの、入院患者数が目標を大きく下回った。新型コロナウイルス関連補助金の大幅な減少に伴い経常収支比率は悪化した。								
	②	指標名								めざす方向性
		市立病院の病床稼働率								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	87.4	81	82.3	72.4	74.4	80.1
			実績	67.7	65.7	70.2				
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症の5類移行により病院運営の制限が緩和されたものの、コロナ禍を通じて看護師数が逡減し、マンパワーに不足が生じたことにより、目標とした入院患者数が得られていない。								
	③	指標名								めざす方向性
		市立病院の入院単価								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	59432	目標	60374	65000	65000	69898	72698	72698
		実績	64417	70059	69170					
達成状況とその理由	D P C I + II 期間（疾病別の全国平均入院期間）内退院率は71.5%へ向上したものの、手術件数が減少して前年度より平均単価が僅かながら低下した。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>C</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>成果指標のうち最重要指標である①経常収支比率が目標を大きく下回った（決算数値は未確定なるも3～4億程度の赤字になる見込み）。①経常収支比率の改善に向けては、②市立病院の病床稼働率の向上、すなわち入院患者数の確保が求められているが、看護師不足による稼働病床数を制限せざるを得なかったことにより、アフターコロナにいても伸び悩む結果となった。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>市立病院の経営改善に向けては、入院患者数の確保が喫緊の課題であるが、建築物の老朽化対策として実施する東病棟外大規模修繕工事のため、令和6年度から令和7年度上半期においても引き続き稼働病床数を制限せざるを得ない。令和6年度においては看護師の新規採用と離職防止に注力し看護師確保に努めて、令和7年度の稼働病床数増加に備える。併せて、集患と早期退院に向けて、地域の医療機関と顔の見える関係づくりにも努めていく。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院経営改善事業にある看護師の新規採用と離職率防止に向けた対策に引き続き取り組んでいただきたい。 ・ 「施策の方向性」に「市立病院の集学的がん診療体制を強化します」とあるが、がん診療体制の強化の今後の取組について記述が必要ではないか。 ・ 「施策の方向性」に「地域の医療機関や介護施設との連携を深めます」とあるが、救急から在宅まで市内の医療機関との連携が分かる説明等があった方がよいのではないか。 ・ 事業評価にある「病院としての目標を各所属、ひいては各職員の行動目標にまではブレイクダウンできておらず、病院の経営状況や向かうべき方向性は周知できているものの、病院目標に向かい各職員がどのように行動すべきかが明確になっていないのではないかと捉えている」という点については、重要な認識である。公立病院では、自治体規模は異なるが、芽室町立病院が現病院長のもと黒字化を達成していく過程で、問題意識に対応するような取組を進めており、参考になるかもしれない。 ・ 地域医療を支える機関の重要性は言うまでもなく、引き続き取組を期待する。 		

施策評価表

施策分野	3-2 地域福祉	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。 ○誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。	
施策	(1) 多文化・共生型の地域づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○福祉に関する意識を高め、地域福祉活動につなげるため、福祉教育の充実を進めます ○課題を抱える人や、地域福祉の担い手が気軽に立ち寄り、話し合うことができ、誰もが共に活躍できる多様な居場所・拠点づくりを進めます ○地域福祉をコーディネートする人材や、地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成を進めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	地域福祉推進事業	総合福祉センター管理運営事業

実施した主な内容	高齢者の地域での就労を支援する、健康・生きがい就労トライアルでは、就労先として保育所を新たに加えて実施した。また、6月～9月、宝塚市社会福祉協議会と協働し民間企業等の参加協力を得て、事務所や店舗、福祉施設、公共施設の一部を「クールシェアスポット」として開放し、地域住民の居場所づくりに取り組んだ。
----------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		福祉教育推進校数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		校	20	目標	32	32	32	33	34	
				実績	22	19	26			
	達成状況とその理由	前年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で授業の実施を見送られる傾向にあったが、5類移行で授業を実施する学校が増えた。								
	②	指標名								めざす方向性
		市内のサロン等の居場所数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		個所	-	目標	233	218	212	-		
				実績	202	205	199			
	達成状況とその理由	9カ所の新規立ち上げがあったが参加者の高齢化を理由に廃止されたものもあり減となった。								
	③	指標名								めざす方向性
		住民向け地域福祉講座の参加者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	128	目標	140	150	160	-		
実績				109	173	453				
達成状況とその理由	新たにボードゲームを活用した講座を導入、30回で延べ381人が参加し、大幅増となった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>福祉教育推進校とサロン等居場所の数は目標に届かなかったが、健康・生きがい就労トライアルの就労先拡充やクールシェアスポットといった新たな取り組みを行ったことから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>地域における福祉の推進には市民参加が欠かせないものであり、市民の自発的な取組が重要である。参加を促し必要性を感じてもらえるよう周知啓発に取り組み、市民等と協働しながら地域の福祉活動の維持、充実を図っていく。また、市民が地域に関わることができる環境を整えるとともに、地域の取組を理解し地域の福祉の担い手育成や住民主体の活動支援について、工夫事例等情報を共有し、各種団体、関係者との連携を密にして取り組む。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルの「多文化共生」に該当する事業が存在しない。総合計画を見直す際に、施策体系について実態に即したものとなるよう再整理いただきたい。 ・福祉教育推進校やクールスポット事業について、市民にとって内容が分かりやすくなるように記載を充実させていただきたい。 ・成果指標③「住民向け地域福祉講座の参加者数」について、達成状況とその理由欄の記載がわかりづらい。ボードゲームが大事なのか、それともボードゲームを使って市民に何かを理解してもらおうということが大事なのかが分かるように説明ありたい。 ・地域福祉推進事業において社会福祉協議会の補助金額だけを活動指標とすることには疑問が残る。中身が分かるような指標を検討すべき。 ・指標③「住民向け地域福祉講座の参加者数」について、福祉人材の掘り起こしにどれだけつながったかを説明ありたい。 ・市の目標に3段階のステップを置いて整理してはどうか。①引きこもりの防止、②リスクリング、③活躍の場のマッチングという形でストーリーラインを引いて整理してはどうか。 		

施策評価表

施策分野	3-2 地域福祉	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。 ○誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。	
施策	(2) 包括的な相談支援体制づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○災害などの非常事態にあっても共に助け合い、誰もが安心を感じられるよう、普段からの多様な主体による見守り・支え合いを促進します ○社会制度の狭間や、市民が抱える複合的な生活課題に対応するため、総合相談支援体制を構築・強化します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	民生児童委員活動事業	生活支援体制整備事業

実施した主な内容	地域からの相談を関係機関につないでもらう存在である民生委員・児童委員への活動補助金を支出した。災害時のみでなく平時からの地域での見守り体制を作るため、災害時要援護者支援制度の周知及び啓発を行った。
----------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		災害時要援護者避難支援組織数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		組織	49	目標	50	51	52	53	54	
	達成状況とその理由	組織数は増加した。地域での説明会の実施等により啓発を進めている。								
	②	指標名								めざす方向性
		地域生活支援会議の開催数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		回	-	目標	14	14	26	26	26	
	達成状況とその理由	関係者の努力により会議への理解が広がっており、全7地区で各2回以上開催された。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
				目標						
	達成状況とその理由									
	④	指標名								めざす方向性
単位		現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>災害時要援護者支援制度を通して地域の見守り体制を補強できると考えられるが、個人情報提供の同意者数は横ばいであり、市民への周知啓発に努める必要がある。地域福祉の要である民生委員・児童委員の活動は活発であるが、依然として欠員区域が発生しているためB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>包括的な相談支援体制の構築においては、分野横断的な支援体制の共有が必要であり、あらゆる施策分野での情報共有が重要である。また、行政内部のみならず民生委員・児童委員等の地域で活動する団体との協力が必要であり、そのために情報提供、連携に取り組む必要がある。関係機関での連携を整えることで困りごとを抱える市民が相談できる体制を整え、地域内での見守りの輪が広がるよう顔の見える関係づくりに取り組み、相談者本人のみならず相談者の家族など周囲の抱える課題にも対応できるよう、制度狭間・複合的な課題解決に向けて行政内部の横断的連携を強化するとともに、関係団体・関係機関による他分野・他機関の連携推進に取り組む。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生・児童委員活動事業は活発であるとされているが、これを指標として表現することはできないか。民生・児童委員の方々がこの施策評価表を見た際に、自分たちの活動を確認することができたり、問題を共有することができたりするような工夫はできないか。 ・ 民生・児童委員の役割は大変大きいことから、成果指標に民生・児童委員の欠員数を入れてはどうか。 ・ 全国的に民生委員などの高齢化や社会環境の複雑化などにより負担が大きい状況にある。民生委員の負担を軽くするなど、活動を補佐する取組があれば、具体的に説明ありたい。 ・ 参画する市民層を広げる観点からいえば、(1) 多文化・共生型の地域づくりや市民自治や人権の分野との連携も必要である。既存の取組があれば具体的に説明ありたい。 		

施策評価表

施策分野	3-3 高齢者福祉	
めざすまちの姿	○高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。	
施策	(1) 高齢者が自分らしくいきいきと暮らせる環境づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○健康寿命の延伸を目指し、健康づくり・介護予防を推進します ○社会参加や世代間交流を通じて、生きがいづくりを促進します ○高齢者が抱える課題や地域課題を共有し、共に考え、身近な地域で支え合う仕組みづくりを推進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	介護予防普及啓発事業	高齢者社会参加・健康促進事業
	老人福祉センター事業	包括的支援事業
	障害（がい）高齢者タクシー運賃助成事業	介護予防普及啓発事業

実施した主要内容	高齢者の介護予防に資する事業として一人でも実施できるウォーキング事業を開始した。高齢者の社会参加を促進するバス・タクシー助成事業を実施した。市内7カ所で開設している地域包括支援センターにおいて、高齢者の総合相談を実施した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		65歳以上の要支援の認定率 ※推計値以下を目標								↓
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	7	目標	7.1以下	7.3以下	7.5以下	7.4以下	7.5以下	
				実績	6.8	7	7.3			
	達成状況とその理由	認定率は年々上昇する傾向にある。								
	②	指標名								めざす方向性
		高齢者アンケートで「生きがいがある」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	-	-	60.9以上	-	-	
				実績	-	-	58.2			
	達成状況とその理由	理由は定かではないが、コロナ禍における外出自粛等の影響も考えられる。								
	③	指標名								めざす方向性
		見守り、支え合い活動に取り組む活動グループ数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		グループ	163	目標	170	180	180	-	-	
実績				174	175	191				
達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、以前のように地域での話し合いが活発に行われるようになり、活動実態の把握が進んだ。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>高齢者の介護予防に資するウォーキング事業を開始し、健康づくり・介護予防を推進したが、指標②においては微減となったため、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により自粛や縮小をしていた高齢者の活動は徐々に再開されているが、縮小されたままであったり停止されたりしている活動への支援が求められる。高齢者の活動は継続性の観点からも、自主的に行われることが必要であり、支援と自立のバランスをとりながら、自発的な活動開始に結びつくような啓発、支援に取り組む。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー不足など市の課題を市民に分かるように記載し、その課題が解決に向かっていることが測れるような指標を検討ありたい。 ・成果指標②「高齢者アンケートで生きがいがあると回答した市民の割合」は行政活動による大きな改善が見込めない。それにも関わらず、この指標が評価に大きく影響している。指標の変更の必要がある。 ・事務事業の指標の重複が見られる。同じ指標を使うのであれば事業の統合を検討すべき。また、別の課で同じ名称の事業を実施しており、わかりづらい。事業名を調整すべき。 ・指標①「65歳以上の要支援の認定率」についても、目指す方向性は低下しているのに、目標値は年々上昇している。この理由が分かるように「達成状況とその理由」に説明を記載していただきたい。 ・「施策の方向性」にある「社会参加や世代間交流」についての記載がない。説明を追記すべき。もしこの内容が他の施策に包含されるならば施策体系を整理すべき。 ・元気な高齢者と福祉サービス等が必要な高齢者など施策ごとにターゲットを明確化することで施策のくくりをわかりやすくできるのではないか。市民がわかる形に整えていただきたい。 		

施策評価表

施策分野	3-3 高齢者福祉	
めざすまちの姿	○高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。	
施策	(2) 望む場所で安心して暮らせる体制づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○介護サービスの整備や、介護する家族の支援に向けて、多様なニーズに対応した支援の充実を図ります ○認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症についての啓発や、支援体制の整備に取り組みます ○高齢者が、医療や介護サービスを受けることとなっても、望む場所で安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉の連携を強化します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	高齢者見守りネットワーク事業	成年後見制度利用支援事業
	地域密着型介護予防サービス等給付事業	地域包括ケア推進事業
	認知症総合支援事業	

実施した主な内容	市介護保険事業計画に基づく基盤整備については、令和5年度は新規開設事業所はなかったが、令和4年度採択事業所（グループホーム1カ所）が2カ年で整備を進めており令和6年度に開設予定である。また、令和5年度公募で看護小規模多機能型居宅介護事業所（1事業所）の整備が採択された。その他、介護保険料の決定のための事業量推計や、体系的な高齢者施策の方向性を定めた地域包括ケア推進プラン（3年ごとに策定、今回は第9期・令和6年4月から）の策定を行った。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		在宅介護サービス利用者アンケートで「内容や質に満足している」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	77	目標	-	-	77.0以上	-	-	
				実績	-	-	81.7			
	達成状況とその理由	在宅で受けられるサービスの充実等により目標を達成した。								
	②	指標名								めざす方向性
		高齢者アンケートで「認知症の人や高齢者等を地域の中で見守ることは大切だと思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	-	-	100	-	-	
				実績	-	-	80.2			
	達成状況とその理由	実績値は横ばいであり、今後も啓発に取り組む必要がある。								
	③	指標名								めざす方向性
		高齢者アンケートで「人生の最期まで自宅で過ごしたい」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	33.1	目標	-	-	33.1以上	-	-	
			実績	-	-	34.0				
達成状況とその理由	指標④と併せて人生の最期を過ごす場所について具体的な想定ができるような啓発が必要である。									
④	指標名								めざす方向性	
	高齢者アンケートの「人生の最期はどこで過ごしたいか」の問いに「わからない」と回答した市民の割合								↓	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
	%	25.2	目標	-	-	25.2以下	-	-		
			実績	-	-	24.6				
達成状況とその理由	指標③と併せて人生の最期を過ごす場所について具体的な想定ができるような啓発が必要である。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>地域包括ケア推進プランを策定し、令和6年度から3年間の本市における高齢者施策及び介護保険事業の取り組むべき事項を整理しており、特に認知症に関する周知については今後さらに取り組む必要がある。地域包括ケアシステムの推進については関係団体が参加する協議会において取り組みを進める必要があるため、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>高齢者が望む場所で安心して暮らすためには、生活を支える介護保険サービスやその他高齢者施策の充実のみでなく地域の理解や見守りが必要である。高齢者の見守りや支え合いについて市民、事業者、行政が連携して取り組む必要がある。認知症への取組について、認知症に関する正しい知識の普及啓発、早期発見・早期対応のほか、認知症の人の尊厳維持と家族支援が重要である。今後も認知症に対する正しい理解を得られるような取組を行う。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の方向性には、「望む場所で安心して暮らせる」とある。にもかかわらず、成果指標はこれを表現する形になっていない。あくまでも「望む場所」で安心して暮らすという選択肢があることを指標とすべきではないか。 ・ 「高齢者アンケート」の結果が指標とされているが、直接的な評価指標を立てるべき。実施した主な事業内容は、事業所の新設・開設であるので、これを評価指標としてはどうか。 ・ グループホームの居住者は、地域内からの入居者なのか。この点も説明が必要ではないか。 ・ 担当部局評価では、地域包括ケアプランを策定したことが書かれているが、このプランに沿った取組はこれからのようである。これから進める事業が明確になったという意味で「B 評価」としているのか。過去の実績に対して進捗したかどうかを評価の根拠とすべきではないか。いずれにしろ丁寧な説明が必要である。全体として、評価指標、評価理由、評価の関係が大変わかりにくい。 ・ 成果指標はすべて、同様のアンケートを実施している他市町と比較するか施策実施後の効果の測定がしにくいものとなっている。成果指標は再考すべき。他市町と比較するような指標を必要とする場合は、オープンデータの活用などが考えられる。なお、介護サービスは全国的な制度であることから、近隣他市とのサービス水準の比較は、市民側から見て重要な情報となる。 ・ 医療・介護・福祉の連携の状況が分かる成果指標を検討ありたい。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(1) 障害（がい）のある人の自立に向けた地域支援体制の整備	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○障害（がい）のある人が地域で安心して暮らすため、障害福祉サービス等の提供体制を整備します ○障害（がい）のある人の社会参加の実現を目指します ○障害（がい）のある人が安心して暮らせる支援体制の充実を図ります	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	障害（がい）者福祉事業	地域生活支援事業
	自立支援事業	身体障害（がい）者支援センター管理運営事業
	地域活動支援センター及び障害者小規模通所介護事業	

実施した主な内容	障害（がい）者団体の社会参加促進やグループホーム新規開設にかかる経費の一部助成、新たに医療支援型グループホームに対する補助を実施した。意思疎通支援、相談支援、日常生活用具等給付、成年後見人報酬等助成などを実施した。障害者総合支援法に基づく介護給付・訓練等給付・計画相談支援給付・地域相談支援給付のサービス提供とともに新たに相談支援専門員を雇用・配置する事業所に対する補助を実施した。在宅で生活する重度身体障害（がい）者に対して障害者総合支援法に基づく生活介護事業を実施した。市内の地域活動支援センター及び小規模作業所、本市の市民が利用する市外の地域活動支援センターに対する補助を実施した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		計画相談支援・障害児相談支援の利用者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	578	目標	532	563	596	803	868	933
				実績	625	645	706			
	達成状況とその理由	計画相談支援の利用者は、障害（がい）者・障害（がい）児ともに目標値を大幅に上回る実績となり、障害福祉サービスの利用促進につながった。								
	②	指標名								めざす方向性
		社会参加に関する相談件数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		件	84	目標	120	120	120	120	120	120
				実績	418	418	319			
	達成状況とその理由	基幹相談支援センターと委託相談支援事業所の職員が共同で地域のサロン活動などを行っていたが、今年度は委託相談支援事業所の職員のみで対応できていたことから相談件数は減少した。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>計画相談支援・障害児相談支援は右肩上がりに増加しており、全体的な障害福祉サービスの利用時間と利用日数も伸びている。また、委託相談支援事業所による地域移行に関する支援の増加に伴い、委託相談支援事業所の相談件数も増加しているため、必要なサービス提供ができていると評価している。ただし、訪問系サービスの実利用者数や手話通訳・要約筆記者派遣件数など目標値を下回った指標もあったことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>障害（がい）のある人が地域で安心して暮らしていくためには、国が示す地域生活支援拠点等の5つの機能である「相談」、「緊急時の受け入れ・対応」、「体験の機会・場」、「専門的人材の確保・養成」、「地域の体制づくり」の充実を図ることが重要である。特に「専門的人材の確保・養成」は切実な課題であり、相談業務や介護業務などすべての場面において専門的な福祉人材が不足している。</p> <p>そこで、今後も障害福祉サービスの利用計画を作成する特定相談支援事業所と地域の相談窓口である委託相談支援事業所及び相談支援の中核を担う基幹相談支援センターの3層構造による相談支援体制の強化を図るとともに、新たな人材の確保策や支援者支援の体制整備が必要である。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標①「計画相談支援・障害児相談支援の利用者数」について、相談件数が増えることが社会的に果たしていいことなのか。「めざす方向性」は相談件数が増える方向を向いている。目標値の設定について再検討すべきではないか。 ・ 専門人材が不足しているという課題があるとのことなので、指標化できないか検討ありたい。また、地域支援体制の支援体制が測れるような成果指標を検討ありたい。 ・ 指標②「社会参加に関わる相談件数」について、本件相談がどのように支援につながっているのかを市民に伝えるようしていただきたい。 ・ 障害（がい）者福祉事業の中身が現在の指標の書き方では見えない。工夫いただきたい。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(2) 障害（がい）のある人の権利擁護の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○障害（がい）を理由とした差別の解消に取り組みます ○障害（がい）者虐待の防止に取り組みます ○成年後見制度の活用を推進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	権利擁護支援事業	

実施した主要内容	権利擁護支援の中核となる相談機関として障害者虐待防止センター機能も有する宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センターの運営業務を委託した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		障害（がい）者虐待の通報件数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		件	23	目標	-	-	-	27	27	27
			実績	13	27	19				
	達成状況とその理由	これまでは顕在化した事案に関する通報受付を行っていたため、年度によって増減があり、昨年度と比較すると減少した。								
	②	指標名								めざす方向性
		成年後見制度新規相談実人数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	-	目標	-	-	-	42	42	42
			実績	18	23	42				
	達成状況とその理由	障害（がい）者の親が高齢化していることから、親亡き後の課題を解消する手立ての一つとして、成年後見制度の相談は右肩上がりに増加している。※R2は集計していなかったため、現状値欄は未記載。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
				目標						
		実績								
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標を変更したため、目標値との比較における評価はできないが、事務事業評価表における指標は全て目標値を上回っている。特に、宝塚市高齢者・障害(がい)者権利擁護支援センターの相談件数は右肩上がりに増加しているため、A評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>障害(がい)者虐待の通報件数は、全国的な傾向として他の虐待と比べて少なく、潜在化していると考えられている。そこで、虐待を無くしていくためにも、些細な変化に気付く人を増やし、通報件数を増やすための取組を行う必要がある。虐待被害者の権利擁護のためには、成年後見制度の活用が必要となる場合も出てくる。また、障害(がい)者の親が高齢化していることによって、今後益々成年後見制度を含む権利擁護に関する相談は増加すると見込んでおり、宝塚市高齢者・障害(がい)者権利擁護支援センターのあり方については検討する必要がある。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害(がい)者の権利擁護の取組として、今後さらに重要視される施策である。権利擁護支援事業の相談件数を見ても、目標値を大幅に上回っており、ニーズの顕在化がうかがえる。 ・ 実施内容は「運営業務を民間に委託したことのみ」と読めるがそれでよいか。委託したとしても、委託先が担う業務と、それをモニタリングし、方向づける役割について記述する必要があるのではないか。 ・ 成果指標①では、「障害(がい)者虐待の通報件数」があげられているが、その数が上昇することが高い評価につながるような形になっている。社会的には虐待通告件数が減少するように環境整備に尽力すべき。 ・ 成果指標①について、通告を受けたもののうち適切な社会資源や支援につながったものの割合にするなど、実際の予防や解決に向けた取組を表わす数値が示されるとよいのではないか。 ・ 成果指標②について、「成年後見制度新規相談実人数」となっているが、件数の表記に留めるのではなく、相談を受けたもののうちの件数など、割合表記にするとより目指すべき方向性が明確になる。 ・ 運営業務の分担を整理し、行政活動の役割と委託先の活動のチェックを整理ありたい。また障害(がい)は固有性が高いことから、ニーズや現状の課題をどう拾い上げるかが重要となる。現場の努力と課題が可視化される指標の検討を期待する。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(3) 障害（がい）のある子どもの成長を支える取組	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○乳幼児期からの療育・発達支援を推進します ○障害（がい）のある子どもの地域生活を支える取組を推進します ○障害（がい）のある子どもの療育に応じた障害児通所支援等の提供体制を整備します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	子ども発達支援センター事業	保育所等訪問支援事業
	障害児相談支援事業	障害児通所給付事業

実施した主な内容	障害児通所支援事業として、福祉型児童発達支援センターである子ども発達支援センターにおいて、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の習得、集団生活などにかかる支援を実施した。 児童福祉法に基づく保育所等訪問支援事業を実施し、家庭支援を行った。 児童福祉法に基づく障害児通所支援・障害児相談支援のサービスを提供した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		障害児通所支援事業の利用者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	1085	目標	1159	1232	1304	1503	1601	1699
				実績	1210	1324	1395			
	達成状況とその理由	継続的に新規利用希望があり、前年度を上回るとともに目標値も達成している。								
	②	指標名								めざす方向性
		障害児相談支援実績人数（月あたり）								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	203	目標	208	222	237	247	259	272
				実績	212	216	255			
	達成状況とその理由	サービスの利用者の増加に伴い、障害児相談支援の利用者も増加しており、前年度を上回るとともに目標値も達成している。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	成果指標は前年度を上回るとともに目標値も達成しているが、施策を構成する主な事務事業において、目標値を達成しておらず、今後、関係者・関係機関との連携のあり方の検討も必要となることから、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組			<p>障害児通所給付事業については、利用者が毎年増加しているが、適切な療育が実施されている事業所において真に必要な人に必要なサービスを提供することができるような調整が必要である。また、障害(がい)のある児童及びその家族に対して、乳幼児期からの切れ目ない支援を行うために保育、教育、保健、医療、就労支援等の関係機関が連携を図る必要がある。</p> <p>そこで、必要に応じて宝塚市障害福祉サービス等ガイドラインの見直しを行いつつ、会議や研修の機会を活用して、相談支援専門員が適切なサービス等利用計画を作成できるように指導を行う。また、乳幼児期から成人期までの一貫した支援が受けられることを目的に作成している「たからっ子ノート」を活用することにより、幼いころからの記録がまとめられ、保護者は進級、進学、就職の際に同じことを何度も説明する必要がなくなり、関係機関同士も情報共有や連携がしやすくなるため、引き続き「たからっ子ノート」の活用の推進を図る。</p>
行政評価委員会 評価			<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害(がい)児や発達に課題があると思われる子どもの数は増加傾向にある。今後さらに積極的な推進が求められる。 ・ 成果指標①において、「障害児通所支援事業の利用者数」があげられているが、目標値は年々増加する設定となっている。この目標値を設定した意味(数の増加?顕在化の途上と判断?)、算出した根拠は何か。受給者証が発行されたうちの利用者数の割合など、成果指標の再考も必要である。 ・ 施策評価表、事務事業評価表ともに記述量に乏しく、施策や事業の実態が理解できない状態にある。事務事業評価表の指標においても何を意味する数値なのかの説明が不足している。例えば、子ども発達支援センター事業の「延べ登園人数」などは、何を説明しようとしているのか。単独通園の子どもの数か、同伴数か。保育所等訪問支援事業においては、保育施設への訪問のみならず、小中校にも訪問しているようであるが、活動指標からはそれらは読み取れない。別の指標も考えられるのではないか。 ・ 母子保健やたからっ子総合相談センターとの連携が強く求められる分野であることから、重層的支援体制の構築も念頭に置いて、今後の方向性を検討するとよいのではないか。

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(4) 障害（がい）のある人の就労支援や生活支援の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○障害（がい）者就業・生活支援センターを中心に就労や就労定着の支援に取り組みます ○障害（がい）者就労支援施設等利用者の工賃向上のための取組を推進します ○ハード・ソフト両面での生活環境の整備に取り組みます	
施策を構成する主な事務事業	障害（がい）者生活支援事業	自立支援医療給付事業
	障害（がい）者就労支援事業	障害（がい）・障害（がい）者理解市民啓発事業
実施した主な内容	施設通所費用助成、タクシー料金等助成、住宅改造資金助成、グループホーム家賃助成などを実施した。更生医療、育成医療、療養介護医療の支給を実施した。就業相談・就職支援・職場定着支援など就労支援の中核となる相談機関である宝塚市就業・生活支援センターの運營業務委託と障害者就労施設利用者の工賃向上を目的とした共同受注窓口への運営補助を実施した。障害（がい）者の幸せを考える標語・作文の募集、障害者週間記念事業、身体障害者補助犬シンポジウム、手話言語発表会を実施した。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		障害（がい）者就業・生活支援センターの支援による就職人数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	61	目標	78	78	78	59	59	59
				実績	46	52	58			
	達成状況とその理由	目標値は下回ったが、R4の実績値は上回り、就労支援も充実している。								
	②	指標名								めざす方向性
		グループホーム家賃助成者数								↑
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	145	目標	141	135	136	197	197	197
				実績	150	181	197			
	達成状況とその理由	新規申請が増加し、目標値、R3及びR4の実績値を上回った。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>障害(がい)者就業・生活支援センターの支援による就職人数は目標値を下回ったが、障害者就労施設共同受注窓口の受注件数と受注額は目標値を上回っていること、グループホーム家賃助成者数は目標値、R3及びR4の実績値を上回っていることからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>障害(がい)のある人が地域で自立した生活を送るためには、住まい・外出時の移動・就労に関する支援が重要である。特に就労については一般就労と福祉的就労の両面での支援方法を検討する必要がある。また、障害(がい)のある人が感じている社会的障壁を取り除き、障害(がい)のある人もない人も自分らしく暮らせる共生社会の実現を目指すためには、障害(がい)と障害(がい)のある人に対する理解を促進していく必要がある。</p> <p>そこで、就労においては事前の実習やアセスメントに加えて定着に関する支援に取り組む。また、より多くの市民に対して障害(がい)と障害(がい)のある人への理解を深めるために、市広報誌やホームページを活用した啓発、イベントの継続的な実施に取り組む。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実績ベースでの成果指標の設定になっているが、これに加え、障害(がい)のある人から見て、宝塚市の行政サービスが充足しているのか、という視点からの説明も検討ありたい。とくに指標の見直しを検討ありたい。近隣市との比較はどうか。 ・民間企業(従業員40人以上)の障害(がい)者法定雇用率が段階的に引き上げられ、未達の場合は行政指導を受ける。障害(がい)者の最低賃金改善も課題である。労働人口が慢性的に不足する中、D&I推進と企業側の受入れ支援体制整備が急がれる。 ・障害(がい)者への金銭的助成・支給などの支援行為から一步前進させ、目標値を下回った要因・理由などを詳細に分析の上、障害(がい)者の就労・雇用促進支援を民間企業との連携を深め重点的に強化する必要がある。 ・官民協力の上、推進するフェーズへの転換時期ではないか。例えば、障害(がい)者の特性・特徴に配慮し、軽作業や単純・繰り返し作業、会話・コミュニケーションを必要としない作業などを企業側で切り出し、在宅業務制度や専門の支援員を配置するなど職場環境を整備し、障害(がい)者とジョブ・マッチングを個別に図るなど、障害(がい)者雇用に先進的に取り組む企業(オムロンなど)を調査・参考にしてはどうか。 ・グループホーム家賃助成者数が増加し目標を達成することは決して悪いことではないが、タクシー料金助成やグループホーム家賃助成のように予算以上に実績があったことを評価するのがよいかは疑問が残る。それよりも、障害(がい)者の就労支援や生活支援の環境整備などの指標として、登録事業所数や相談者数を成果指標にした方がよいのではないか。 		

施策評価表

施策分野	3-5 社会保障	
めざすまちの姿	○社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心で健やかな暮らしが守られている。	
施策	(1) 生活困窮者等の経済的・日常的・社会的な自立の促進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○生活保護法や生活困窮者自立支援法に基づき適切な支援が確実にいえるよう関係機関が連携し、相談支援体制の充実を図ります ○個別の状況に応じた支援プランをもとに自立に向けた支援を行います ○ハローワークなどとの連携による就労支援の充実を図り、生活困窮者等の経済的自立を支援します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	中国残留邦人等支援事業	生活困窮者自立支援事業
	生活保護受給者等就労支援事業	生活保護適正実施推進事業
	生活保護事業	

実施した主な内容	中国残留邦人等に対する日本語教室の運營業務を委託した。生活困窮者に対して困窮状態から早期に脱却することを目的とする自立相談支援事業を委託により実施した。住居確保給付金の支給や自立相談事業を委託した。稼働年齢の被保護者に対して就労支援員による就労支援を実施するとともに直ちに就労に至らない被保護者に対して生活習慣確立のための指導や就労体験等を通じた訓練を行う就労準備支援事業を委託した。生活が困窮している世帯に対して、最低限度の生活を保障するとともに自立を助長するために、その困窮の程度に応じ必要な保護を行った。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		生活保護受給者が就労につながった人数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	25	目標	40	40	40	40	40	40
				実績	27	23	25			
	達成状況とその理由	就労につながった人の内訳として新規就労者は昨年度と同数の21人だった。増収した人は4人で昨年度より2人増となり、全体で昨年度より2人増となった。								
	②	指標名								めざす方向性
		生活困窮者が就労につながった人数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		人	-	目標	100	100	100	100	100	100
				実績	74	61	30			
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類となったことにより雇用情勢が改善したことなどにより、就労相談の件数が46件で昨年度から33件減少し、それに伴い就労件数も31件減少した。								
	③	指標名								めざす方向性
		自立相談支援プラン作成数								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		件	105	目標	224	224	224	224	224	224
			実績	133	103	66				
達成状況とその理由	引きこもりの方などこれまで相談機関につながっていなかった世帯からの相談が増加しており、相談は継続するが、自立に向けたプラン作成には至らないケースが多かった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>生活困窮者支援においては、就労につながった人数と自立相談支援プラン作成数ともに昨年度実績を下回ったが、引きこもりの方など自立相談支援プランの作成に至らないケースの支援を行った。生活保護受給者は、昨年度よりも支援対象者を増やしたことによって、就労につながった人数を増加させることができた。以上のことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>潜在化していた引きこもりの方などが少しずつ相談につながってきているが、自立相談支援プランの作成までには至っていない。生活保護を新たに開始となった受給者については特に丁寧な就労支援を行っていく必要がある。また、一旦就労につながった場合においても生活保護から脱却するほどの収入を得ることが難しかったり、就労が定着しない場合も多い。そこで、生活困窮者支援については、引きこもりの方に対する居場所づくりや活動支援策を検討し、段階的に自立相談支援プランの作成へとつなげていく。また、稼働能力を有する生活保護受給者等に対しては、個別の環境を踏まえたうえで粘り強く就労支援を継続していく。また、ハローワークと連携しながら就労支援員が効果的な就労支援に努め、就労機会の確保に向けた取組を行っていく。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部局評価では、支援対象者が増えたことを評価している。成果指標と評価理由があっていない。これらいずれも、就労しようとした人（相談件数）、自立相談支援プラン作成の相談をした人を母数として、母数も実績も評価できるようにすべきではないか。 ・担当部局評価は、目標値についての評価が無く、前年度に対するレビューとなっている。目標値に対する評価が必要である。 ・目標値が施策分野の他施策と異なり設定がR8 までとなっており、その意図がわからない。第6次宝塚市総合計画はR12までの計画である。施策分野の全施策、事務事業について目標値設定はR12 までとすべき。 ・「施策の方向性」に「関係機関が連携し、相談支援体制の充実促進を図る」とあるが、この過程を指標化できないか。 ・「施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組」が分かりにくい。各対象者・支援者毎に箇条書きにするなど、読み手が理解し易い書き方を工夫していただきたい。 ・自立相談支援プラン作成数は目標値と実績値の乖離が大きいのでその理由を記載もしくは目標値の修正を行うなど検討ありたい。 		

施策評価表

施策分野	3-5 社会保障	
めざすまちの姿	○社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心で健やかな暮らしが守られている。	
施策	(2) 健やかな暮らしを支える医療保険制度等の適切な運営	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○国民健康保険税収入の確保や医療費の適正化に努めるなど国民健康保険制度を健全に運営します ○医療費負担を軽減し、安心して医療を受けることができるよう福祉医療費助成制度を適切に運営します ○高齢化の進行に伴う被保険者数の増加を踏まえながら、後期高齢者医療制度を適切に運営します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	徴収事業	乳幼児等医療費助成事業
	障害者（児）医療費助成事業	徴収事業
	特定健康診査等事業	保健事業

実施した主な内容	国民健康保険制度の適切な運営に努めるとともに、令和5年度は福祉医療制度の乳幼児等医療費助成事業において所得制限の撤廃及び高校生への適用拡大（ただし入院のみ）に取り組んだ。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		国民健康保険被保険者一人当たりの医療費								↓
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		円	384393	目標	-	-	-	-	-	
				実績	416509	429217	445848			
	達成状況とその理由	加入者の高齢化や医療の高度化などにより、一人当たりの医療費は増加傾向が続いている。								
	②	指標名								めざす方向性
		国民健康保険税の収納率（現年度分）								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	-	目標	95.4	95.5	95.6	95.6	95.7	
				実績	96	96	95.9			
	達成状況とその理由	徴収率はほぼ横ばいだが目標は達成しており、賦課と収納の体制一体化や納付方法の多角化などの効果が出ているものと考えられる。								
	③	指標名								めざす方向性
		国民健康保険特定健康診査受診率								↑
		単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8
		%	34.9	目標	55	58	60	60	60	
			実績	36.3	37.4	37.5				
達成状況とその理由	目標値には達していないが令和4年度から0.1ポイント増加した。未受診者への電話勧奨等の効果が出ていると考えられる。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	R8	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>国民健康保険加入者数の減に伴い保険給付費総額は減少しているが、一人当たりの医療費は増加傾向であり、現年度の収納率については目標値を達成したものの、特定健診受診率は目標に達していないため。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>国民健康保険は社会保障の一環として国民皆保険制度の中核となる重要な役割を担っているが、所得の低い人や高齢者の加入割合が高く、医療費が増加傾向となる構造上の問題を抱えている。県下広域化に向けて、引き続き保険給付費の抑制につながる取組を推進していく必要がある。</p> <p>今後も保険税の収納確保策として、納付相談体制の強化や、口座振替など自主納付の推進を継続するとともに、特定健診や特定保健指導の受診率向上に向けての電話や訪問による利用勧奨、健康づくりに関する啓発や事業の推進を行い、被保険者の健康保持と医療費の抑制につなげていく。</p> <p>また福祉医療費助成制度については、制度の安定維持のため、市の障害者施策、子ども施策として総合的な検討を行い、安定的な財源の確保に努め今後のあり方について検討していく。</p>		
<p>行政評価 委員会 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果指標①「国民健康保険費被保険者一人当たりの医療費」は保険者負担分などの補足説明が必要である。 ・ 成果指標③「国民健康保険特定健康診査受診率」の目標設定率と実績には乖離が大きい。短期的な目標として到達する可能性がある数値をあげてはどうか。 ・ 「施策の方向性」に福祉医療費助成制度に関する記述があり、福祉医療費助成制度に関する実績はいずれも目標値を上回っている。市民アンケートの指標があればそれを採用されてもいいのではないか。 ・ 「施策の方向性」に「後期高齢者医療制度を適切に運営します」とある。他方「後期高齢者医療制度は広域連合が制度運営の主体となる」ともある。整合性はあるのか。市の役割は何か。「施策の方向性」は福祉医療費助成制度と合わせて記載してはどうか。 ・ 就業年齢70歳延長かつ75歳以上年齢の増加に伴う国民健康保険被保険者数の減少スピードは一層早まると考えられる。国民健康保険被保険者だけの対策や動向把握では、全市民の「健やかな暮らしを支える医療保険制度等の適切な運営」はできない。当該施策完遂には、課や部署さらには他医療制度との間で情報の交換、共有が避けられない。情報共有システムの構築、活用等の計画化、実行を急ぎ、その過程を指標にしてはどうか。 ・ 第6次宝塚市総合計画は「前期」「後期」と分けないとのことだが、当該施策の指標が前半5年だけとなっている。後半5年の計画はいつ、どのように市民に公表されるのか。また、徴収事業において保険税収納額目標値がR7年まで毎年同じとなっているが、推定被保険者増減数を参考に意思のある目標値が策定できないか。後半5年の目標値策定時はそのように願いたい。 ・ 指標③の国民健康保険特定健康診査受診率は再掲となっているので(3-1(1))、整理ありたい。なお、他市比較は市民にとって価値がある指標ではないか。 		